

<令和6年11月定例記者会見>

1 開催日時

令和6年11月8日（月）午前10時30分～午前11時00分

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手日報社、朝日新聞社

4 発表事項

(1) 第46回チャグチャグ馬コ写真コンテスト入賞作品カレンダー2025の販売について（観光物産課）

滝沢市観光物産協会では、第46回チャグチャグ馬コ写真コンテスト入賞作品カレンダー2025の販売を開始しました。

8月21日に行われた写真コンテストの入賞作品12点を月毎に掲載しております。販売価格は1部1,500円（税込）で、ネットショップ「チャグまるしえ滝沢」、ビッググループ滝沢内の協会窓口で販売しているほか、ふるさと納税返礼品として登録される予定となっています。

カレンダーの販売は、チャグチャグ馬コのPR、馬事振興を目的とし、収益金の一部を滝沢市チャグチャグ馬コ同好会に寄附する予定としています。

(2) 令和6年度滝沢市地産地消イベント事業「たきざわ大地の恵み“まるっと晩さん会”2024」の開催について（観光物産課）

令和6年度滝沢市地産地消イベント事業「たきざわ大地の恵み“まるっと晩さん会”2024」を令和6年12月3日（火）に開催いたします。

これは、リンゴやサツマイモなど滝沢市の特産品のほか本市に関わる食材を使用した飲食イベントを開催し、生産者や事業者、飲食店関係者間の商談の機会とするとともに、消費拡大及び認知度向上を図ることを目的に実施するものです。

まるっと晩さん会は昨年初めて開催し、2回目となる今回は、生産者や加工品製造者、事業者や飲食店、金融機関関係者等60～70名ほどをご招待する予定としておりますが、一般の方の参加はございません。

また、当日のメニューにつきましても、滝沢産の野菜を中心にした構成を予定しており、季節の彩りサラダ&スティック野菜、雑穀と野菜のちらしずしなどデザートも含めると16品程度の提供を予定しております。

滝沢市内の大地の恵みを様々な調理法で参加者の皆様に楽しんでいただきつつ、生産者と事業者がマッチングするきっかけとなるイベントになるよう進めておりますので、ぜひ報道関係者の皆様にも取材にお越しいただければと思います。

(3) Out of KidZania in 滝沢2024の開催について（地域づくり推進課）

子どもたちの職業・社会体験施設「キッザニア」の企画・運営を行うKCJ GROUP株式会社（ケーシージェーグループ）の監修のもと、「アウトオブキッザニア in 滝沢2024」を12月14日（土）と15日（日）の2日間、ビッググループ滝沢で開催します。

ビッグルーフ滝沢の指定管理者「まるっと滝沢プロジェクト」と滝沢市、そして滝沢市教育委員会の3者共催、そして令和元年、2年に続く3回目の開催となります。両日で延べ約1,000名の子どもを受け入れます。

本イベントでは、日ごろ目にする職業から、メディアでよく聞く多種多様な企業に参加いただき、子ども達が夢をもって世界に羽ばたいて行くことが出来るよう、本市への愛着と広い視野を育む24種類の体験プログラムを提供いたします。

本イベントの参加予約は11月16日（土）より専用申し込みサイトで受け付けます。詳細は添付のチラシをご参照ください。

（4）滝沢市産業分野地域おこし協力隊の委嘱について（農林課）

この度、本市の有害鳥獣対策における課題解決に寄与できる人材を募集し、選考をおこなった結果、応募者1名への委嘱を決定しました。滝沢市として4人目となる地域おこし協力隊員が今月より活動を開始いたしますので、お知らせいたします。

市の有害鳥獣対策に係る現場対応や、狩猟免許取得・地元猟友会への加入啓発、ジビエ利活用の研究などの活動を行っていただく予定です。

活動にあたりましては、地域の皆さまと交流をしながら活動を行うこととなりますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、本記者会見後、委嘱状交付式をこの会場で執り行います。こちらについても取材方、よろしく願いいたします。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：チャグチャグ馬コカレンダーの発売は、毎年やっているものですか。

経済産業部長：今年で3回になります。

記者：お値段は毎年変わらずですか。

観光物産協会職員：変わりません。

記者：ふるさと納税の返礼品としても登録される予定とのことですが、おそらく弊社（岩手日報社）で発表して、買いに来るといよりはおそらくネットショップやふるさと納税の返礼品として、という方も多いと思います。返礼品への登録の予定はいつ頃ですか。

観光物産課長：すでに準備はできています。

記者：今までどれくらい売れているのですか。

経済産業部長：後ほどご回答いたします。

記者：まるっと晩さん会についてですが、昨年の参加者数を教えてください。

観光物産課長：昨年は50人くらいです。

記者：今年はそれに加えて、招待する方も少し増やした形ですか。

観光物産課長：そうです。

記者：事業者や飲食店の皆さんは市内の方が多いのですか。

観光物産課長：事業所さんについては市内にこだわることなく、滝沢の食材を使っていただけるところに声をかけていました。

記者：ご招待する方は県内外からになるのですか。

観光物産課長：基本的には県内の方になります。

記者：県内の生産者、事業者、飲食店の皆さんに滝沢の素材を使っていただくということですね。

観光物産課長：はい。事業自体はたきざわキッチンに委託しておりまして、そちらから声をかけていただいているものです。

記者：キッザニアについて、昨年の参加者数はどれくらいですか。

地域づくり推進課長：昨年ではなく令和2年に、コロナ禍もあり分散開催した時のものですが、144人でした。

記者：今年で3回目の開催ということで、両日延べ1,000人とのことですが、今までで一番大きな規模ということでしょうか。

地域づくり推進課長：令和元年度に開催した際に延べ人数ですが、1,185人ですので、同規模程度と考えております。

記者：24社の協力を得てという形になるかと思いますが、令和元年度の際は何社だったのですか。

地域づくり推進課長：25社になります。

記者：KCJさん監修とありますが、キッザニアさんの出張のような扱いでしょうか。

地域づくり推進課担当者：そうです。キッザニアの常設の施設は国内に3カ所あるのですが、その他にも、自分たちが監修し、現地に出張して開催する「アウトオブキッザニア」というものがあります。今年は7カ所で開催されるようですが、最北端が滝沢市とのことですね。

記者：岩手県内ではここでしかなかなか体験できないイベントということですね。

地域づくり推進課担当者：そうです。ビッグルーフ滝沢で開催するということにこだわりをもってやっています。

記者：チラシに記載がありますが、申し込みの受け付けは16日（土）からでしょうか。

地域づくり推進課担当者：そうです。

記者：地域おこし協力隊の方についてですが、弊社紙面に「新戦力」という欄がありますので、そちらで後程お話を聞かせてください。

記者：キッザニアについて、参加いただくのは24社という表現でよろしいですか。「種類」でしょうか。

地域づくり推進課担当者：案件要旨に記載のとおり、24「種類」という表現でお願いします。

記者：1回目の開催が2019年（令和元年）でよろしいですか。

地域づくり推進課担当者：開催は2020年（令和元年度）になります。

記者：これまでは2月頃の開催だったようですが、今回は開催が早くなっているのには理由があるのですか。

地域づくり推進課担当者：これまでは雪の問題があり、当日の天候次第で交通の便が悪くなったりしていました。令和元年の際は東京や宮城県からの参加もあったこと、計画

の動き出しを早くしたことで、年末前の開催しやすいのではということで日付の設定をしました。

記者：他県や近郊の方の申し込みも見込んでいるということですね。

地域づくり推進課担当者：そうです。

記者：「市長の仕事」というメニューもありますが、こういった内容となる予定ですか。

企画政策課長：まずは市長室での決裁の体験であったり、市内の施設を視察したり、最後はビッグルーフに戻り、記者会見を体験してもらう予定です。

記者：市長体験ができることも踏まえて、市長からのコメントをお願いします。

市長：来てくれる子どもたちが一日楽しく過ごしてくれること、そして滝沢市の市政に興味を持ってくれればいいなと思っています。今まで自分が使っている道路や歩道、公園、学校などはどうしていけば滝沢市は良くなっていくのか、そういったことを考えていただけるきっかけになればいいなと考えています。

副市長：チラシにある通り、この事業は各社から協賛いただき、企業版ふるさと納税も協力いただきながら成り立っているものです。その点も含めてぜひ PR いただければと思います。

記者：参加いただく事業所はすべて滝沢市内の事業所ですか。

地域づくり推進課担当者：すべて市内というわけではありません。基本的には県内を中心としていますが、子どもたちが夢をもって歩いてもらうためには、いつもテレビで見る仕事や、あこがれの仕事にも声をかけてご協力いただきつつ、開催するものです。楽天イーグルスやヴェルディなどは、野球やサッカーを実際にするのではなく、その周りにも様々な仕事があるのだというギャップや気づきを楽しんでいただきたいという思いもあり、ストレートな職業体験にはならないような工夫もしています。

6 その他記者からの当日質問

記者：先日衆参同日選挙があり、鈴木氏が当選となりましたが、今回の選挙について市長からひと言総括をお願いします。

市長：ずいぶん全体の構図が変わったなと感じています。立憲の方が増えて自民の方が一人になりましたが、さまざまな観点から県民の皆さんは投票したものと思います。まずは県民の意思を、当選された皆さんにはしっかりと受け止めていただき、今後の政治活動に活かしていただけるといいなと思っています。

記者：ビッグルーフ周辺の開発計画について、業者の方から何か詳細は出てきていますか。

副市長：だんだんと決まってきている部分はあるようですが、まだオープンにするタイミングではないようです。

記者：特に参院選については、広瀬前議員の辞職によるところですが、市長が令和4年に当選された際にも広瀬さんは応援に来てらっしゃったと思います。その点も含め、今回自民党側では候補は出さなかったと思いますが、市長から見た選挙についてコメントをお願いします。

市長：今回広瀬さんが起こした事案については、非常に残念に感じています。当時参議院選挙では多くの県民の声を手にしたと思っています。その手にした声を別な形で、もっともっと広く国政の場で活かして活躍していただきたかったというのが正直な気持ちです。今回の事案に関しては、私も情報は持ってはいませんが、どこかの場面で説明があるものと思っていますので、注視していきたいと思っています。併せて、自民党の皆さまも、今回の参議院の補欠選挙では、県民の皆さんからいろんな声を受け止めたものと思っています。それに対してのこれからの自民党の皆さんの政治活動には注視していきます。投票率も様々な形であったわけですが、市政を預かる身としては、もっともっと政治あるいは市政に興味、関心を持ってもらって、これからの滝沢市あるいは岩手県の発展に少しでもプラスになるようにしっかりと行動してまいります。

記者：今回市長は衆院選の中で応援には入られましたか。

市長：はい。

記者：応援に入った中で、そういった声は実際にありましたか。

市長：広瀬さんの事案があった後に、選挙戦前ではありますが、残念だったなどの声をたくさん聴きました。

記者：応援に入った中で逆風を感じることはありましたか。

市長：確かにありました。様々なお声や民意を感じたのが正直なところですが、また、これからの政治の在り方を考えさせられました。

記者：今月で市長になられて2年、折り返しになるかと思いますが、政策の進み具合など、残り半分をどういう風に進めていくか教えてください。

市長：まずは第二次滝沢市総合計画を市民の皆様にしっかりお示しできたことが大きかったかなと思います。私の公約と、市民の皆さんからいただいた声でこの総合計画を作ることができました。市政を展開していくうえで最も大切な総合計画ですので、職員の皆さんとも連携しながら作り上げることができたのは、大きなことだったと思っています。これまで2年間市政を担わせていただきましたが、職員と一緒にこれからの2年間もやっていきたいという強い思いを持っています。それを市民の皆様にしっかりとお届けして、これからの滝沢市の在り方や進むべき道、市の新たな価値などを職員や市民の皆様と一緒に作り上げながら、あるいは見つけながら、広く未来を示せるように頑張っていきます。現在開発中のプロジェクトをはじめ、滝沢市全体を見ながら、これからの市政の展開を考えていきたいと思っています。